

## ヤマブドウ害虫の発生事例(1)

- ブドウスカシクロバによる幼葉及び花穂の食害 -

### 1 研究のねらい

ヤマブドウの病虫害防除は、「岩手県農作物病虫害・雑草防除基準」に従って行われているが、他の栽培ブドウを参考に防除体系が構築されているものであり、ヤマブドウに特徴的な病虫害の発生に対応するものではありません。ヤマブドウの加害種については不明な点が多いことから、発生する病虫害種を明らかにすることを目的として観察を行っています。今回は、ブドウスカシクロバによる食害が見られたので報告します。

年間のものであるので、数年間の継続調査結果を基に、新たな防除体系を構築する必要があります。



ブドウスカシクロバ(左)と葉の食害(右)

### 2 研究方法と結果

矢巾町内に薬剤散布を行わない病虫害試験地を設定し、被害の発生を観察しました。ブドウスカシクロバの寄生が観察されたので、無作為に3樹を選び頭数と被害葉数を調査しました。検定林では薬剤散布を実施しており、病虫害試験地と同様に観察を行い、それぞれを比較しました。なお、検定林では、5月27日にMEP乳剤を希釈倍率1000倍で散布しています。調査は平成17年5月20日から6月11日まで行いました。

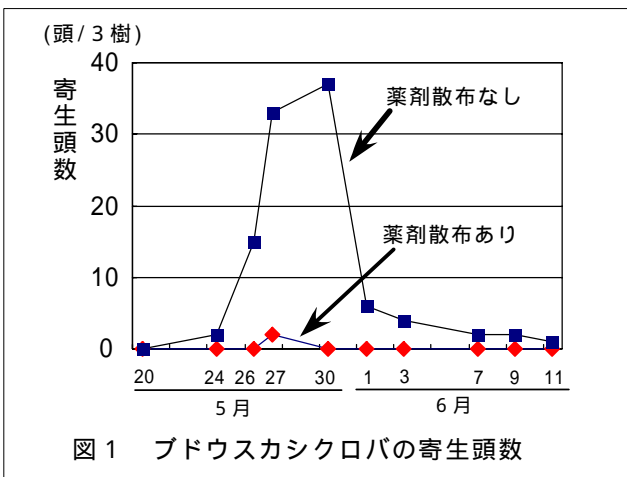


図1 ブドウスカシクロバの寄生頭数

ブドウスカシクロバの被害は、まず5月18日から新梢に虫糞が見られ、24日には幼虫が幼葉を食害し、葉を穴だらけにしています。ブドウスカシクロバの寄生は5月24日から観察され(図1)、薬剤散布しない試験地では5月30日頃に最も多く37頭が寄生していました。一方、薬剤散布を行った検定林では寄生頭数が少なく、最高でも2頭でした。

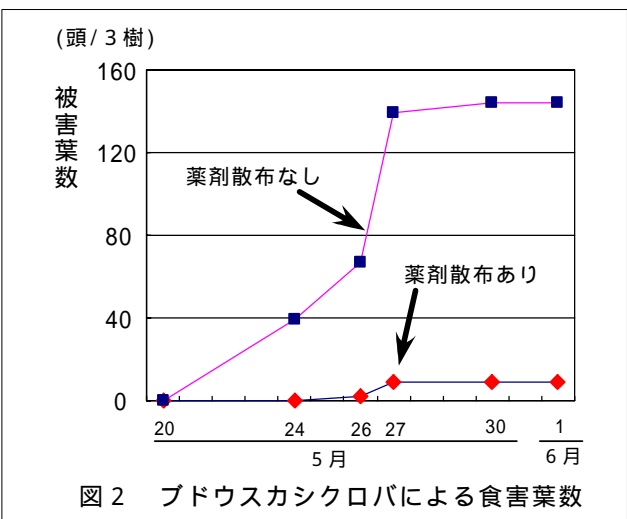


図2 ブドウスカシクロバによる食害葉数

被害葉数では、薬剤散布しない試験地では寄生が確認された5月24日から確認され、5月27日にはほとんどの葉や花穂が食害を受けており、収穫が望めないほどの激害でした(図2)。一方、薬剤散布ありの試験地では9枚の葉が食害を受けたにとどまりました。

### 3 成果の活用

ブドウスカシクロバが加害種であり、その発生時期が明らかとなったが、この結果は1

(担当 林産利用部 主任専門研究員 泉 憲裕)